

受験相談Q & A

1 入試関係

Q：入試はどのようなものがあるか。

A：農業系高等学校後継者等特別推薦入学、一般推薦入学、一般入学の三種類です。

農業系高等学校後継者等特別推薦入学は愛知県内の農業系高等学校に在籍し、農業後継者や学力など一定の条件に該当し、高等学校長が推薦できるものです。

一般推薦入学は高等学校若しくは中等教育学校に在籍し、学力など一定の条件に該当し、在学学校長が推薦できる者です。

推薦基準を満たしているかは、在籍する学校に相談してください。

Q：試験科目は何か。

A：農業系高等学校後継者等特別推薦入学試験は面接、一般推薦入学試験は小論文と面接、一般入学試験は数学Ⅰ、小論文及び面接です。

Q：県内の農業系以外の高校から推薦入試は受験できるか。

A：一般推薦入試は、所定の条件を満たしていれば、対象となります。在学している学校に相談してください。

Q：県外の者は推薦入学ができないか。

A：一般推薦入試は、所定の条件を満たしていれば、対象となります。在学している学校に相談してください。

Q：他大学等との併願は可能か。

A：推薦入学は、合格したら入学が確約できる者が条件です。なお一般入学は、併願が可能です。

Q：希望の専攻に入れない場合もあるのか。

A：特定の専攻に希望が集中する場合も多く、その場合は入試の成績や調査書を踏まえて専攻を決定するため、希望の専攻に入れない場合もあります。

オープンキャンパス等で専攻の内容を十分にリサーチしておいてください。

Q：一般二次試験は実施されるのか。

A：専攻単位で欠員が生じた場合のみ実施します。実施するかどうかは一般一次試験合格発表時にホームページ等でお知らせします。

Q：県外受験者は不利になるのか。

A：一般推薦入学、一般入試ともに県外受験者が不利になることはありません。

なお、農業系高等学校後継者等特別推薦入学については、愛知県内の農業系高等学校に在籍し、卒業見込であることが要件になります。

Q：入試の過去問は公開しているのか。

A：ホームページで公開しています。

Q：入学試験の倍率はどれくらいか。

A：令和6年度入学生入試の倍率は、特別推薦1.0倍、一般推薦1.1倍、一般一次1.1倍、

一般二次 2.0 倍です。

Q：面接では何を聞かれるのか。

A：一般的な事項を聞きます。

Q：普通科の生徒だが、どんな受験対策をしたら良いか。

A：小論文は、農業に関する内容が出題されるので、農業に関する新聞などをみておくとうまいでしょう。

数学 I は、基礎的な知識を問う問題です。

2 学校生活関係

Q：非農家で農業系高校以外からの入学を考えているが、入学後ついていけるか心配である。

A：非農家で非農業系高校から進学してきた学生は多く在学しており、特に心配する必要はありません。

また、高校で生物を履修していれば、生物を基礎とすることができます。

Q：奨学金制度はあるのか。

A：本校は、学生支援機構の対象校となっています。

Q：自家用車は使用できるか。

A：許可を受ければ使用が可能です。

Q：2年間の費用190万円の内訳を知りたい。

A：入学料、授業料、寮使用料、寮共通経費、光熱水費、食費、実習費、海外派遣研修費などです。

授業料・寮使用料、寮共通経費等は、半期ごとに徴収します。

Q：資格はどのようなものが取得できるか。

A：毒物劇物取扱者、大型特殊・けん引免許（農耕車限定）、危険物取扱者、ボイラー取扱者、小型車両系建設機械、フォークリフト、刈払機、家畜人工授精師、日本農業技術検定といった農業に関する資格等を取得することができます。ただし、公的資格は、資格試験等に合格する必要があります。

Q：女子学生の割合はどれくらいですか。

A：年によって異なりますが、概ね30%程度です。

Q：クラブ活動はありますか。

A：クラブは現在13クラブあります。

運動部：軟式野球、硬式テニス、陸上、フットサル、バレーボール、バスケットボール、バトミントン、卓球

文化部：茶道、軽音楽、写真、農業商人塾、ボードゲーム部、手芸

Q：海外派遣研修は自由参加ですか。

A：2年生の専門科目の授業のため全員参加です。

Q：入学後2つの専攻を学びたいが可能か。

A：カリキュラムの関係上、専攻の掛け持ちはできません。

Q：自動車の運転免許は在学中に取得できますか。

A：できれば取得した方がよく、入学後近くの自動車学校に通っている学生も多くいます。

大型特殊自動車（農耕車）はMTなので、取得の際はMTで取得することをお勧めします。

3 寮関係

Q：アルバイトはできますか。

A：平日、休日とも寮の門限を守れる範囲であれば可能です。なお、アルバイトをする場合は届出が必要です。

Q：週末は寮にすることができるか。

A：週末及び長期休業時は原則帰宅することとなります。

ただし、専攻当番や自宅が県外等にあり、帰宅が難しい学生は、届出の上在寮することができます。

Q：自炊はできるのか。

A：寮の構造上自炊はできません。平日は食堂を利用し、休日は各自で用意をしてください。なお、談話室に共用の電子レンジ及びトースターがあります。

4 進路関係

Q：4年制大学への編入は可能か。

A：可能です。ただし、本校のカリキュラムが編入しようとする大学と合致する必要があります。また、在学中は授業以外にもきちんと勉強する必要があります。

過去には、帯広畜産大学、信州大学、岐阜大学、島根大学、酪農学園大、中部大学などに編入しています。

Q：非農家だか、どんなところへ就職しているか。

A：就職先は農業関連が多く、就農する場合は農業法人への就職ができます。

Q：県外への就職を予定しているが可能か。

A：可能です。ただし、求人は県内が多いため、県外への就職は、個人が情報収集することが必要となります。

Q：大卒やUターン、Iターンのため農大に入学しても就職活動は可能か。

A：他の学生と同様に就職活動をしています。

5 その他

Q：社会人向けの研修制度について聞きたい。

A：オープンキャンパスは、教育部農学科への入学を対象に実施しています。社会人向け研修制度については、農業大学校企画研修部におたずねください。